2019年06月20日 中日新聞 朝刊 13頁

小さな命と向き合う

碧南海浜水族館

ミカワサンショウウオ

展示が始まったミカワサンショウウオ＝碧南市の碧南海浜水族館で

環境省のレッドリストで、三段階中で最も絶滅の危険度が高い絶滅危惧ⅠA類に指定されるミカワサンショウウオの展示が十九日、碧南市の碧南海浜水族館で始まった。展示は豊川市の「ぎょぎょランド」に次いで全国で二番目。

三河地方にのみ生息しており、二年前に遺伝子解析で新種と確認されたミカワサンショウウオは、体長約九㌢で茶褐色。つぶらな黒目が特徴だ。

絶滅危惧種、展示開始

両生類の生態に詳しい愛知教育大の島田知彦准教授から成体六匹を譲り受けた。展示されるのはこのうち三匹。水槽内でコケに紛れたり、岩の間に隠れたりしている。

碧南海浜水族館は、県内の希少野生動植物種の保護保全に関する協定を県と結んでおり、展示はこの一環。展示担当者は「まずは飼育方法を確立して、将来的には繁殖を目指したい」と話す。（福沢和義）

ドチザメの赤ちゃん

体調が回復し、他の稚魚と一緒に泳ぎ回るドチザメの赤ちゃん（手前）

体調回復、展示を再開

19日は、食欲不振で中断していたドチザメの赤ちゃんの展示再開もあった。

３月13日に生まれ、体長は15㌢から25㌢に成長。当初は細身だったが、全体的に丸みを帯びて、泳ぎに力強さも出てきた。今回からは、以前より広い水槽でほかの稚魚と一緒に泳ぐようになった。

繁殖の成功例が少ないことから、碧南海浜水族館でも慎重に保護してきた。これまで飼育員が棒の先に付けたエサを口元まで運んでいたが、今後はエサを自ら探して食べられるようになる訓練を始める。これができるようになれば、安定した成長期に入ったと判断できるという。　（福沢和義）

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています